

合格体験記（不合格体験記含む） 和田 崇

【はじめに】

令和 2 年度に MMC の門を叩き、通年で講義を受け 2 次試験に初挑戦しましたが、結果は不合格となりました。その後、今年令和 3 年度試験に再挑戦し、2 次筆記試験に合格することができました。私の好きな言葉に、『勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし。』がありますので、以下では、合格年と不合格年の違いを中心に、MMC の活用方法について良かった点と悪かった点の両面を述べていきます。中小企業診断士受験生の予備校選びの一助になれば幸いです。

【受験歴】

1 年目：令和元年度はまず 1 次試験突破に向けて有名な通信講座受講

1 次試験合格

2 次試験未受験（仕事都合により…受験しても間違いなく不合格でした！）

2 年目：令和 2 年度試験に向けて MMC 通年受講（前中期：通信、後期：通学）

1 次試験未受験

2 次試験不合格（評価：C49 A67 B55 A61 で B232 判定）

3 年目：令和 3 年度試験に向けて 1 次通信講座再受講、2 次 MMC 教材 & 今年度模試活用

1 次試験合格

2 次試験合格（評価：A76 C46 A64 A84 で A270 判定）

【MMC を選んだ理由】

2 次試験合格に向けて、大手予備校やふ〇〇い等の模範解答やそこに至る考え方も異なるため、正解発表の無い 2 次試験特有の壁に直面しました。独学での限界を感じ予備校通学を検討しましたが、大手予備校の模範解答は 80 分間で自分が書けるようになる気がしない中、MMC の講座説明会や模範解答、合格体験記を見て、他社とは違うわかりやすい解答への納得感や、MMC で学び合格した講師陣による指導に一貫性を感じたため受講を決めました。

【不合格体験記】

①不合格年は MMC の教材をこなすことで満足し、本番を見据えた準備（過去問対策）が疎か

②不合格年は事例 I から大失敗し、引きずる形で事例 II 以降も余計にプレッシャーがかかった

①②に共通して言えることは、本番での緊張を緩和して、実力を発揮できる準備ができていなかったことに尽きます。ただし、合格年であっても事例 I の手応えが全く無い中で、徳川先生の勝負は事例 II からでも遅くないという言葉が胸に、開き直りにも近い精神状態で残る事例を戦っていました。

不合格年は事例Ⅰで終わったと思い、事例Ⅱ、事例Ⅲでもその失敗がよぎる中で、事例Ⅳでも極度のプレッシャーが掛かったことを覚えています。（事例Ⅳの得点开示結果と各予備校採点が大きく開いているため、解答の転記ミスなどポカミスがあったのではないかと推測…）一年に一度しか無い試験において、最終的には学力よりも精神力に左右されることを認識し、そのための準備を合格年に行うことができました。不合格年も合格年も模試では他校含め常に上位 15%以内なので、事例Ⅳ以外の学力自体はさほど変わっていないというのが本音です。

具体的な不合格要因と対策

- ①シャープペンの芯がびっくりするくらい折れる ⇨ ドクターグリップから「オレーヌ」に替えました
- ②試験終了時間を勘違い（3 時限目） ⇨ アナログ時計を用意（毎時限 0 時スタート）
- ③過去問対策の不足 ⇨ 合格年はほぼ MMC でもらった過去問模範解答解説集のみに注力

特に筆圧の強い方は①にご注意ください。緊張で力が入ってまともに文字が書けない状態になります。また、②はそんな馬鹿なと思うでしょうが、事例Ⅲを 20 分間も少ない 15 時終了だと勘違いをしたため大慌てで解答し、気づいた後も動揺で上手く修正できませんでした。普段キッチンタイマーで学習していたため、翌年からアナログ時計を毎時限 0 時に合わせて 80 分間をタイムマネジメントしました。③は一番本質的な要因で、MMC のオリジナル教材は段階的に本試験を戦うための土台を作る素晴らしいものですが、最終的には本試験本番の対応力（応用力）が最も大切であり、その準備を怠っていました。7 月末の本試験添削以降は、試験直前期まで MMC でもらった過去問の模範解答解説集を開くことのないまま本試験に臨み、勉強してきたことが出し切れないまま終わりました。

（不合格後に思い返すと、最終アドバイスで過去問の与件と設問を読み解答を思い浮かべる訓練だけでもするように言われていましたが、他校の模試や知識面の不安解消など余計なことを優先…）

【合格年と不合格年の学習方法の違い】

- ①合格年は試験本番前に事例Ⅰ～Ⅲで何を書くべきかがある程度決まっていた
不合格年は MMC オリジナル事例問題中心の復習を行い、合格年は事例Ⅰ～Ⅲ過去問 10 年分（特に直近 5 年分）を何度も解き直しました。わざとわかりにくい与件文や設問文に慣れることや、毎年違う文章でも問われている根幹部分は事例毎に共通していること、各事例が求めている解答の方向性を掴むことができたため、初挑戦時のような過度な緊張もなく試験に臨めました。
- ②合格年の事例Ⅳはどんな問題が出ても高得点を確保できる自信がついた
不合格年も各講義後の財務応用計算問題や GW 財務集中ゼミの問題集を繰り返しましたが、合格年はそれに加え過去問 20 年分を何度も解き直すことで、過去問全てを時間内に解答でき、過去問特有の曖昧な表現に対し解釈基準を事前に準備したことで、大きな自信に繋がりました。
（ポカミス防止のため終了 5 分前で、①解答転記、②単位、③桁数、等の最終確認を習慣化）

【おわりに】

予備校に通う一番のメリットは、自分の書いた文章を添削してもらうことで、自分では気づかない文章のわかりにくさや論理の飛躍に気づき、改善の機会を得ることだと思います。わかりやすい文章を、80分という時間内に、本番の緊張感で書くための訓練と的確なアドバイスがMMCにはあります。

試験の特性上、自分に合う予備校がどこなのかを判断することは非常に難しいとは思いますが、決断後は迷うことなく講師の方々のアドバイスを信じるのが何よりも大切だと思います。MMCは、模試でも個別アドバイスをもらうことができるので、最終的に他校を選択した場合でも非常にお勧めです。私が不合格要因を冷静に見極め、合格に向け歩めたのも定期的なアドバイスの賜物だと思います。

MMCでの受講を考えている皆さまには、『勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし。』の言葉どおり、勝ち体験はあくまでも話半分程度に、負け体験は是非とも心に留めていただいたうえで、MMCの活用方法を間違えることなく最大の学習効果を発揮していただければ幸いです。

(少しでも不安や疑問を感じた際は、すぐに講師へ相談すれば的確な回答がもらえるので安心です)

最後になりますが、2年間に渡りMMC講師陣の皆さまの手厚いご指導に深く感謝申し上げます。